

2023 State of Design & Make

建築、土木エンジニアリング、建設 (AEC) 業界のサマリー

AEC業界のリーダーから提供された、ビジネス上の最大の課題と機会に関するインサイトを紹介します。



「State of Design & Make」は、物や空間、体験を設計・デザインし、創出している世界中のビジネスリーダーを対象に毎年実施するグローバル調査のレポートです。今回の調査は、現在のビジネスの意思決定に反映されているビジネスの変化を推進している主要な要因を明らかにし、ビジネスリーダーが未来に向けて何に優先的に取り組むか、投資するかを判断する際の助言とできるようなものです。

グローバル規模の市場調査・世論調査と情報サービスを提供するイプソスとオートデスクが提携し、2,565人のビジネスリーダー、未来学者、専門家を対象にアンケートとインタビューを実施して、直面している課題や認識している機会に関する見解を尋ねました。

「State of Design & Make」レポートの全文 (すべての用語および研究分析を含む) を読む

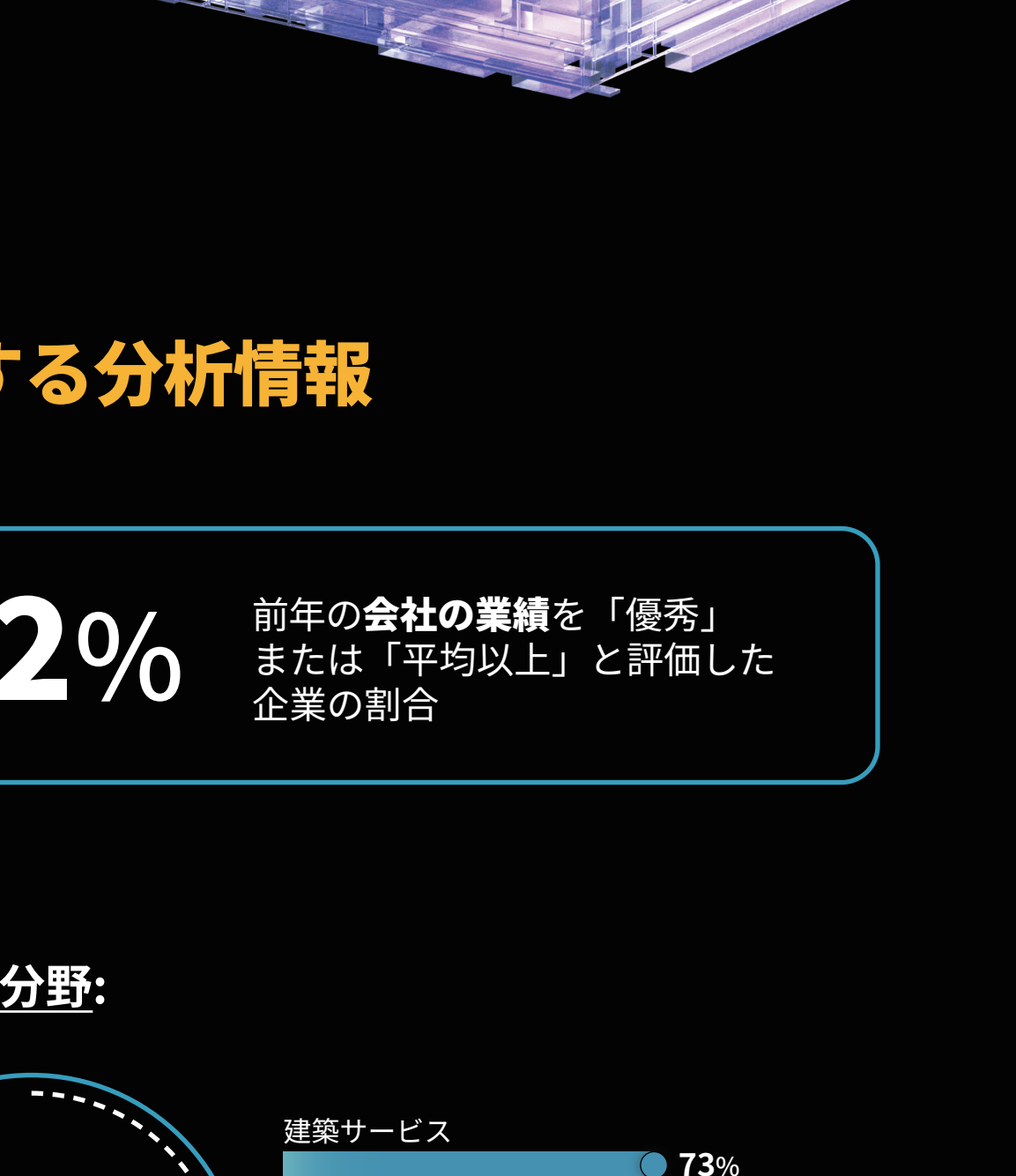
不安定な情勢から生まれるビジネスのレジリエンス

業界横断サマリー

ビジネスリーダーと専門家は、「未来の世界情勢は3年前よりもさらに不安定になっている」と回答しています。一方でその多くが「自社はこの不確実性に対応する準備ができています」とも回答しています。

企業のデジタル成熟度によって、この点で大きな違いが見られました。デジタル成熟度が高い企業では、そうでない企業よりも、「変化に対応する準備ができています」と回答した割合が高くなりました。デジタル成熟度が高い企業では、今後3年間で投資の増加を計画していると回答した割合が高くなりました。

加速している業界の変化に対応できている企業の多くが、既存のサービスの拡充、新しいサービスの提供、市場開拓の新たな可能性を視野に入れて計画を立てていると述べています。

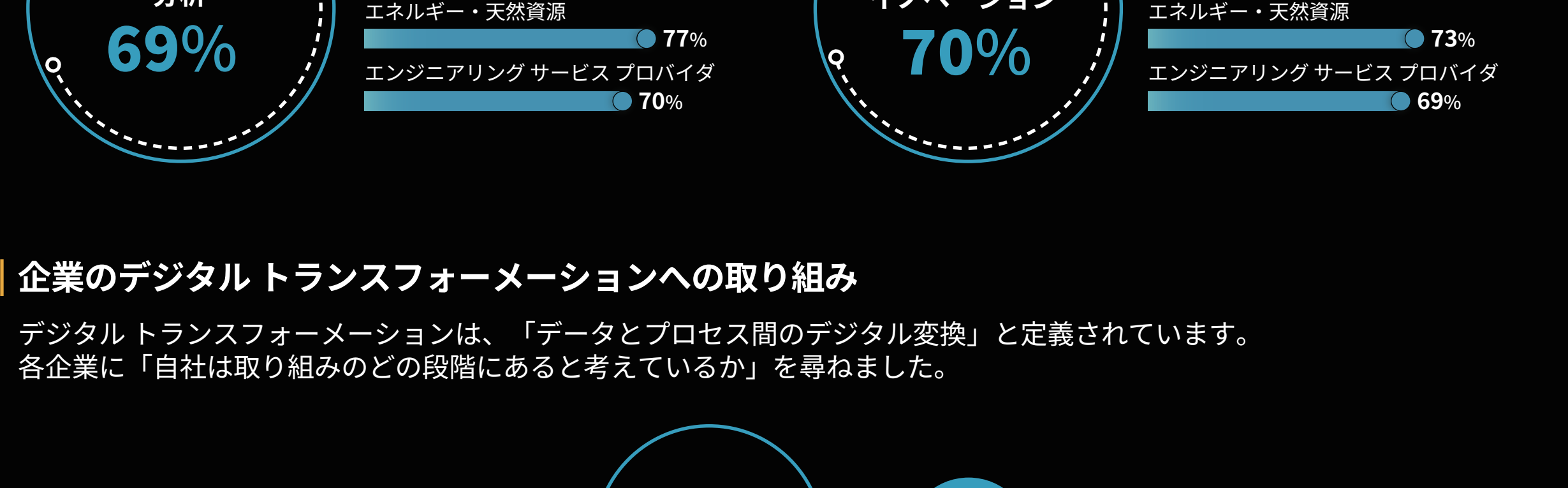


建築、土木エンジニアリング、建設に関する分析情報

79% 会社の今後の成長はデジタルツールに依存すると回答したAEC業界関係者の割合

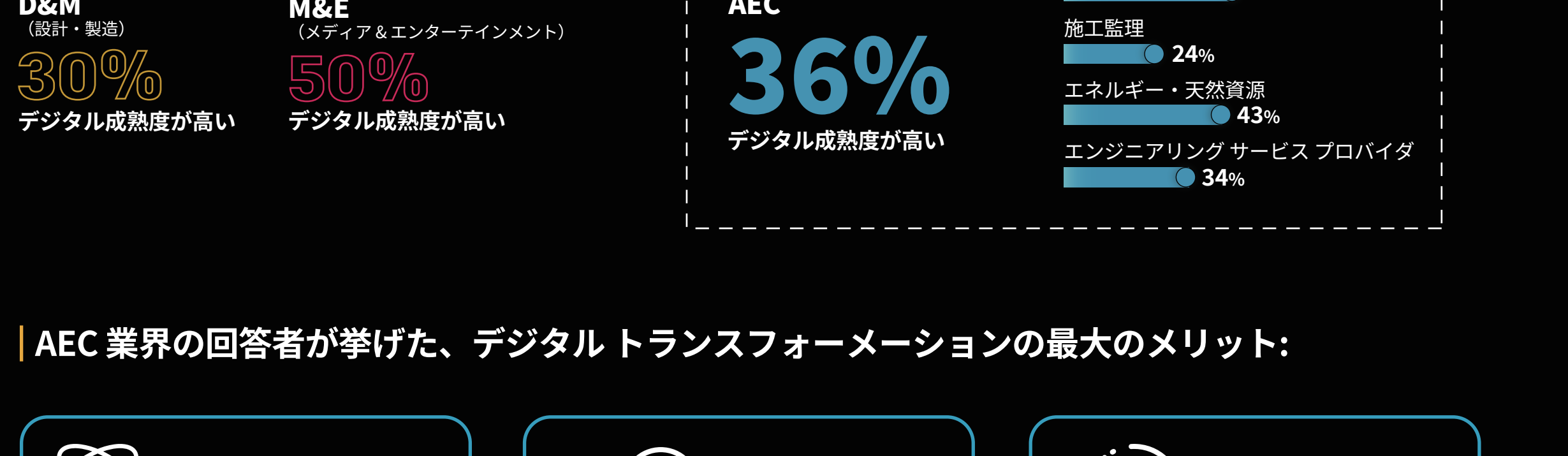
52% 前年の会社の業績を「優秀」または「平均以上」と評価した企業の割合

AEC業界関係者が回答した、今後3年間で投資を増やす主要分野:



企業のデジタルトランスフォーメーションへの取り組み

デジタルトランスフォーメーションは、「データとプロセス間のデジタル変換」と定義されています。各企業に「自社は取り組みのどの段階にあると考えているか」を尋ねました。



デジタル成熟度が低い: 取り組みの初期段階または中期段階にある企業を「デジタル成熟度が低い」企業と定義

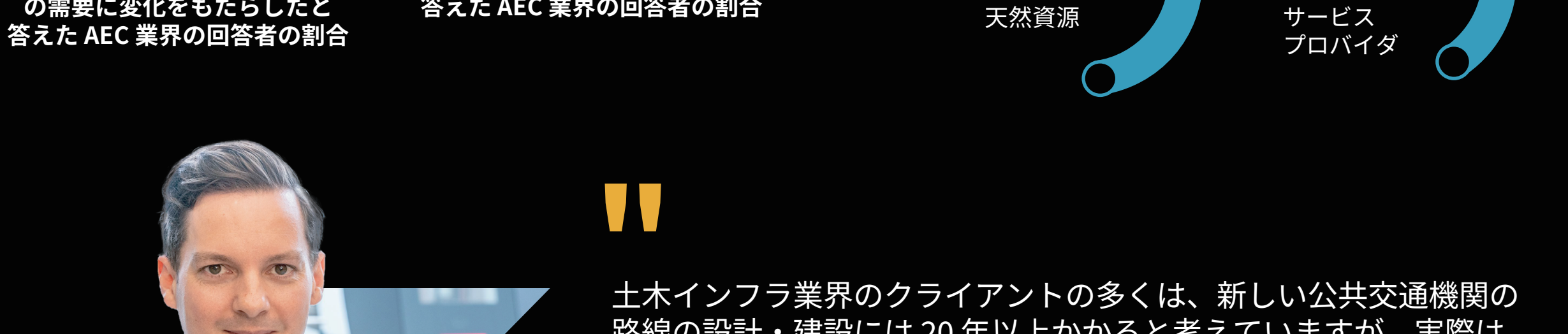
デジタル成熟度が高い: 変革達成に近い企業、またはすでに変革を成し遂げた企業を「デジタル成熟度が高い」企業と定義



AEC業界の回答者が挙げた、デジタルトランスフォーメーションの最大のメリット:



パンデミックへの対応:

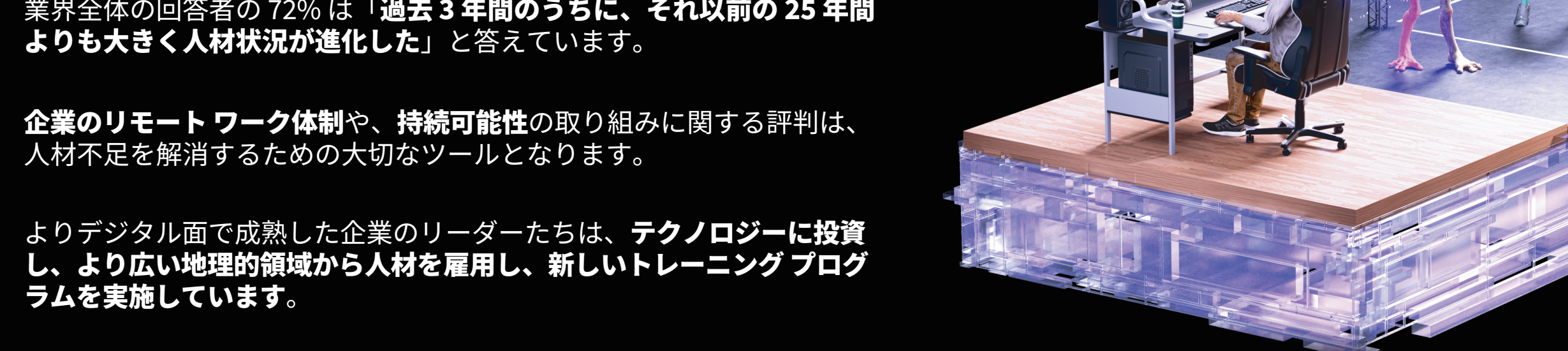


新型コロナウイルス感染症のパンデミックが製品やサービスの需要に変化をもたらしたと答えたAEC業界の回答者の割合

パンデミックによって自社の人員の管理方法が変わったと答えたAEC業界の回答者の割合

データの活用:

社内のデータを、AIや自動化との連携に活用していると回答した人の割合:



Max Bögl, 製品管理責任者, Andreas Rau 氏

土木インフラ業界のクライアントの多くは、新しい公共交通機関の路線の設計・建設には20年以上かかると考えていますが、実際はデジタルワークフローによって同じプロセスを5年未満で完了できます。DXは、また幅広い業界に浸透しているわけではありません

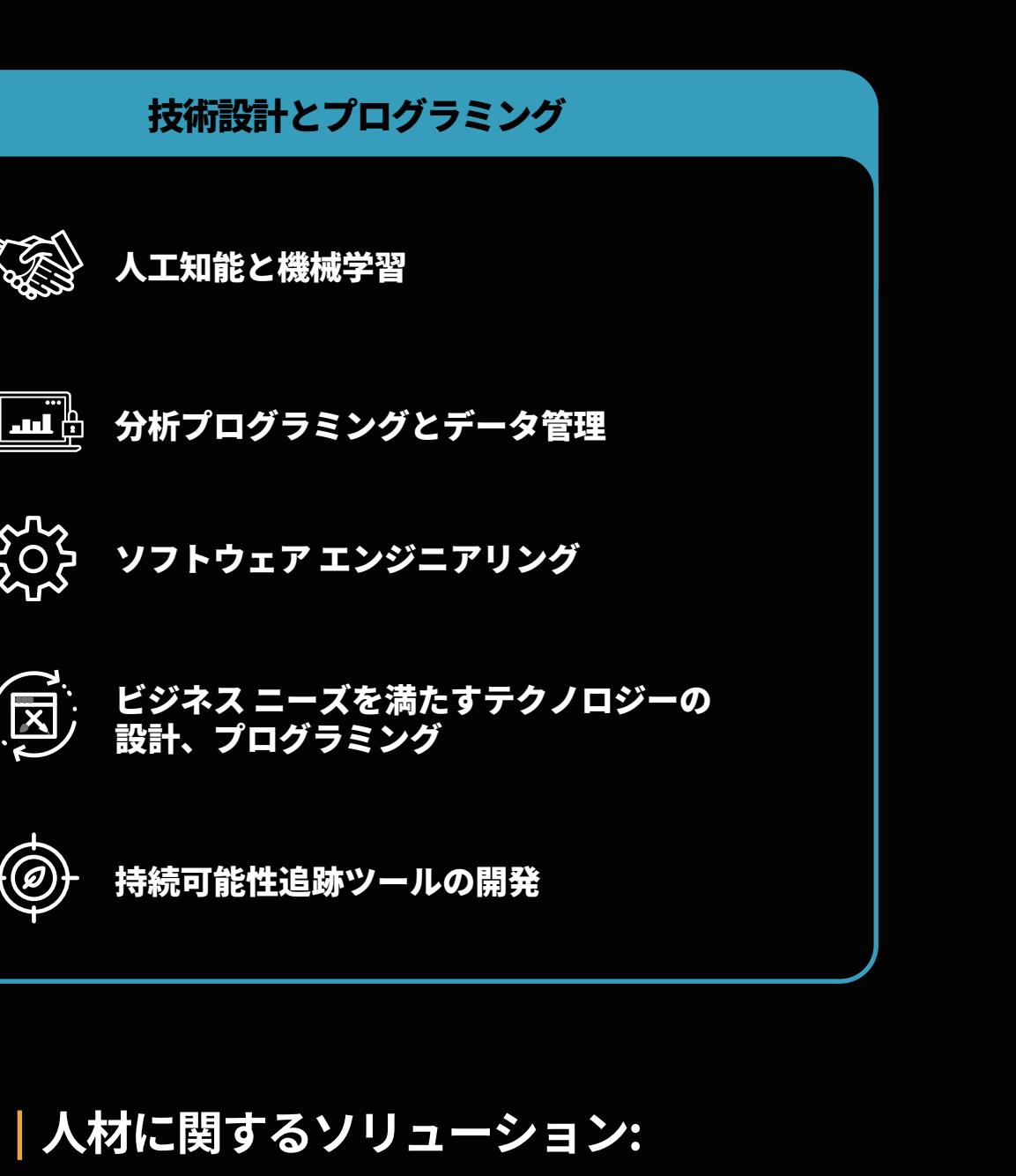
人材獲得の競争が激化

業界横断サマリー

業界全体の回答者の72%は、「過去3年間のうちに、それ以前の25年よりも大きく人材状況が強化した」と答えています。

企業のリモートワーク体制や、持続可能性の取り組みに関する評判は、人材不足を解消するための大切なツールとなります。

よりデジタル面で成熟した企業のリーダーたちは、テクノロジーに投資し、より広い地理的領域から人材を雇用し、新しいトレーニングプログラムを実施しています。



未来に求められるスキル

建築業界、土木エンジニアリング業界、エネルギー・天然資源業界の回答者は、今後3年間における自社の人員の最も重要なスキルとして以下を挙げています。



人材の課題:

人員の高齢化が急速に進んでいると答えたAEC業界の回答者の割合

自社の企業文化は若い世代のニーズに適応するのが遅いと答えたAEC業界の回答者の割合

業界で実践されている手法と比べて、新卒者の知識が旧式のままであることが多いと答えています。...私たちは、独自のパートナーをベースにチュートリアルを開発し、新入社員が社内開発技術と特許について、知識を習得できるように教材として利用しています"

China Construction Eighth Engineering Division Corporation (CCEEC) 工学研究所責任者、MingLei Ma 氏

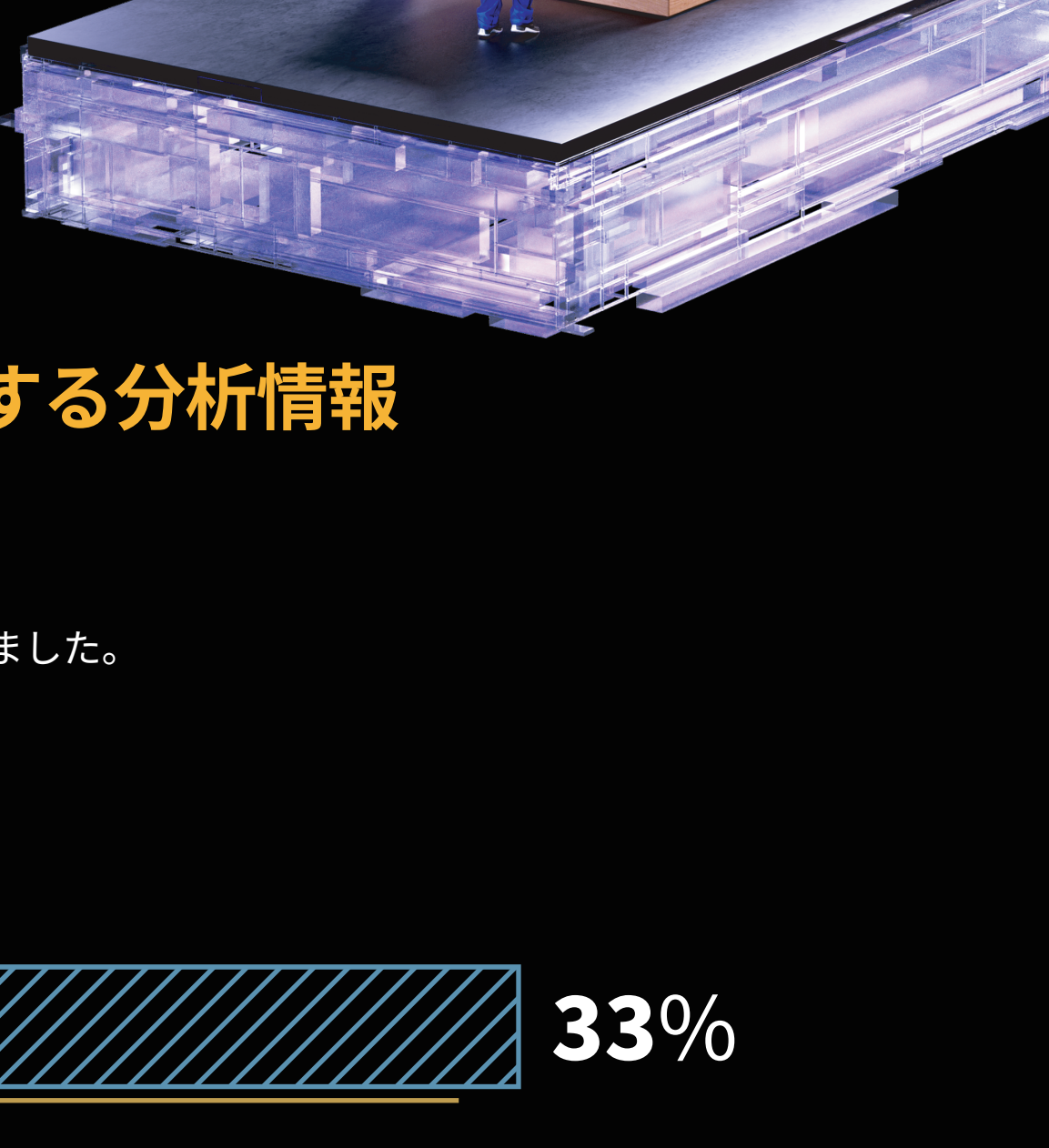
ビジネスの価値を高める持続可能性

業界横断サマリー

ビジネスリーダーと専門家の大多数は、「持続可能性の目標を達成することは、自社にとって重要である」と回答しています。回答者の90%近くが、「自社/業界は、持続可能性向上のための変革に取り組んでいる」と答えました。ただし、「自社の持続可能性の取り組みに誇りに思う」と強く同意した回答はわずか17%となりました。

回答者の83%は、長期的なビジネスの観点から、サステナビリティの取り組みを改善すべきだとしています。また、回答者の過半数は、短期的なビジネスの観点でも良い判断だと答えました。

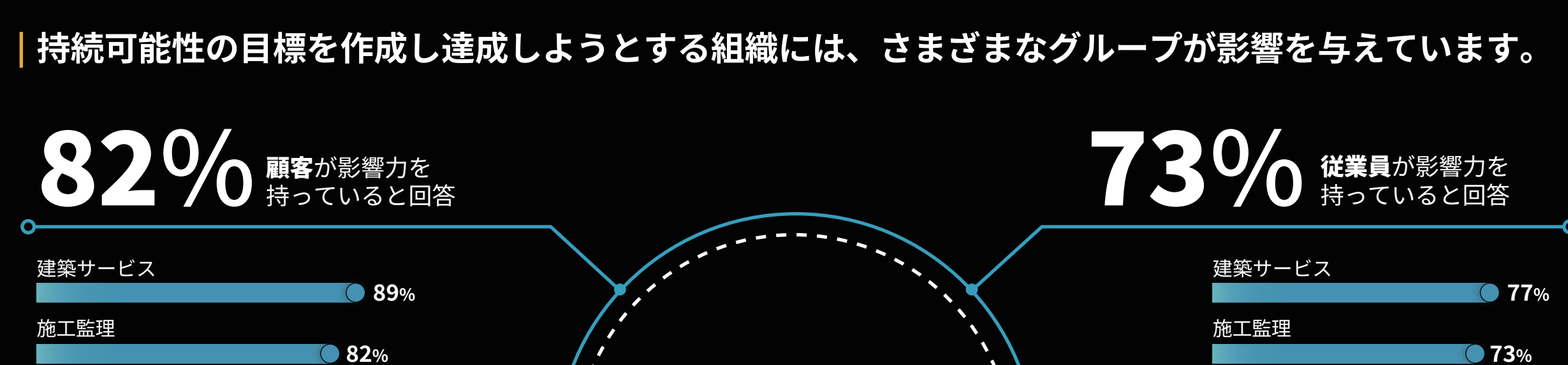
さらに、回答者の約20%は、最終的には収益の大半が持続可能性の取り組みによって得られるようになるかと答えています。



建築、土木エンジニアリング、建設に関する分析情報

持続可能な取り組み

回答者へ、自社が持続可能性の向上に向けて何に取り組んでいるかを尋ねました。AECは以下のような取り組みでリードしています。



持続可能性の目標を作成し達成しようとする組織には、さまざまなグループが影響を与えています。

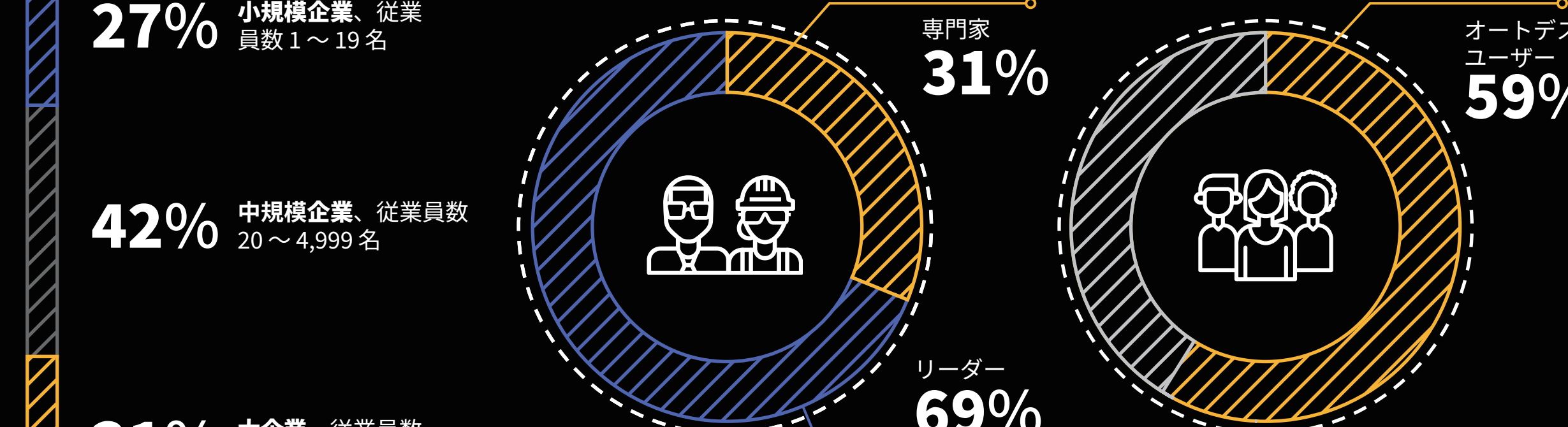
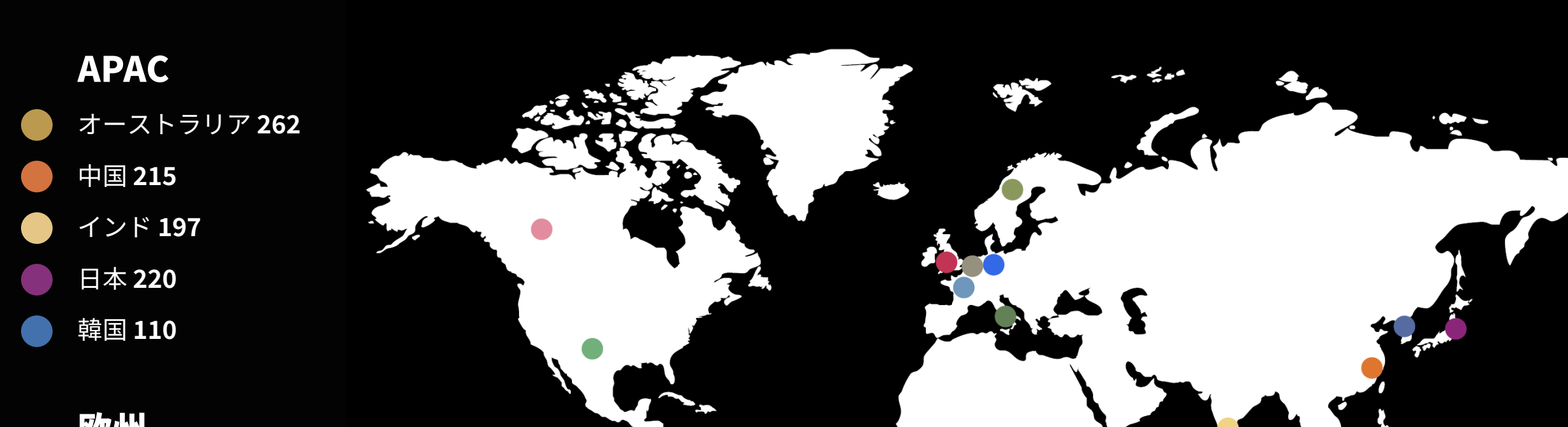


脱炭素化を進める取り組みの大部分は、コストの問題に左右されます。二酸化炭素削減に非常に高い関心を持ち、二酸化炭素排出のコストを正確に評価している顧客もいますが、まだその段階には至っていない顧客もいます。結局、二酸化炭素削減という重要な取り組みは、費用対効果が高くない場合は実施されない可能性があります"

Perkins&Will, アソシエイト、地域サステナブルデザインリーダー、Daniel Ho 氏

回答者データ

2,489 数値的調査の回答者数 + 76 インタビュー参加者数



「State of Design & Make」レポートの全文 (すべての用語および研究分析を含む) を読む

レポート全文を読む